

呑川レポート 2014-2 高度処理水停止で見えたもの（その1）

寒い日が時々あるものの、しっかりとした暖かさが確実にやって来ているのを感じるようになって来ました。
今回は、呑川の水が止まり、それから見えてきたものを探ります。

1) 高度処理水停止の背景



ここは「呑川」の現在における上流端で、太陽光パネルで前面が覆われた東工大の校舎と共に、東急線の高架が見え、右手にはボールなどが「呑川」に入り込まないように、東工大グラウンドのネットが張られています。

近くには大井町線「緑が丘」駅があります。

この場所から出ている水は、新宿の「落合水再生センター」で「高度処理」された下水処理水です。

この「呑川」の水が3/6-3/10の5日間停止するという事態が起きました。



普段は、ゴムのカーテンの下から、勢いよく「下水処理水」が呑川に流れ込みます。



しかし、3/6には「高度処理水」は流入しなくなり、風でゴムのカーテンが揺れるばかりです。

どうしてこうなったのか、その背景を見てみましょう。



落合水再生センターで作られた下水処理水は南下し、
まずは「渋谷川」に送られ、次には「目黒川」に流され、
最後に「呑川」の「工大橋」から流れ込みます。
(「城南3河川清流復活事業」と呼ばれます。)
その水量は、呑川では36000m³/day位です。

ところが、渋谷駅付近の再開発(土地区画整理事業)で
「渋谷川」の付け替え工事が行われることになりました。



出典 www.miwachiri.com

これは「みわちり」というHPで見つけた、渋谷駅周辺図です。
「渋谷川」の真上に東急百貨店(東横店・東館)が建っています。
「川」という公共施設に、私的な構造物が建てられた理由は不明ですが、
東急線「渋谷駅」という公共施設を作るため、またその施設の
関連施設として百貨店が認められたと言われています。
理由はともあれ、東急電鉄の社長の五島慶太氏は、「鉄道省」の
大臣まで務めた人ですから、その影響が大であったようです。
(当時は東急コンサルの総師でした。)

しかし、「渋谷川」の上に東急百貨店を作ったことは、大きな欠点を
背負いました。

どこでも「デパ地下」は稼ぎ頭ですが、「渋谷川」があるため
地階は出来ず、人気の地下食品店街が作れないのです。

今回の「土地区画整理事業」では、この「渋谷川」の流れを変えて、
大胆な再開発が行われるそうです。

そのため、「落合水再生センター」からの「高度処理水」の管路も
変更を余儀なくされ、その工事で「呑川」への処理水供給が
停止されたのです。

上の地図では「稲荷橋」から下流は、点線から太い実線の「渋谷川」に

表現されています。



この写真の手前側、車の走っているところが「稲荷橋」で、昨年「呑川の会」では、都市河川ウォーク「渋谷川・古川ウォーク」を行い（白石さん案内）、ここから渋谷川が開渠になっているところを見てきました。

さて、今回の区画整理事業の現場に立ちたいと、渋谷に行って来ました。



たしかに東横店・東館の前から、工事で開渠となった「渋谷川」が見えていました。（緑のネットが張られている所が渋谷川）旧来の東横線が走っている場所は緑道になり、渋谷川沿いもステキな空間になるそうです。

しかも、渋谷川に流される高度処理水も増量されるとか・・・
どんな風に大きく変わるか、楽しみです。

2) 処理水停止の実態



処理水が停止した時の上流部の「呑川」です。
水はあっても、流れているようには見えません。
その水の流れの両側を見ると、3本の線が見え、気になります。



実は、処理水が全量流れていた時、半量しか流れていない時、
そして今回のように「処理水停止」の時と、ハッキリとした
流れ跡が河床には付いているのです。
と言うことは、こういう事態が、日常的に起きているからなのです。

また、「処理水停止」の状態でも流れる、わずかな水量があるのも
実感出来ます。



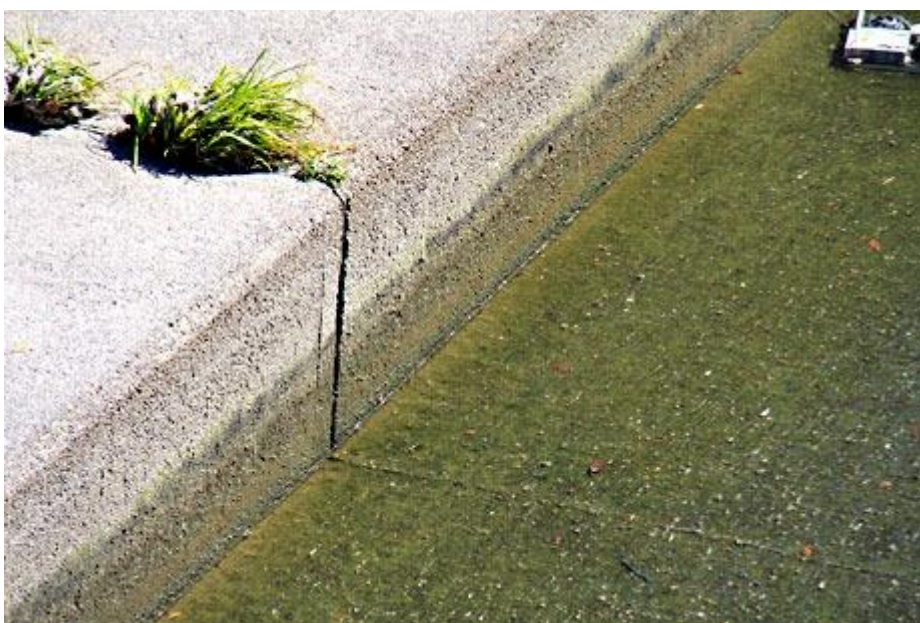
呑川の「護岸湧水」は、それなりの量で流れ込んでいます。
ですから「処理水停止」でも、良く眺めると少しずつ流れているのが判ります。
ただ、「流れる」と言うのにはほど遠く、この写真に見えるように、白いレジ袋や、枯れ葉などの軽いものでもそのままとどまっているのです。



また、河床はわずかな微高低がありますから、水にかぶらず露出する部分があちこちに出ますし、ゴミもまたとどまります。



護岸湧水の中には「鉄分」が多く含まれたものがあります。
普段は川の流れて流れ去り、赤い水は見えないのですが、
処理水停止の実態では、赤い水そのものが河床を流れていくのが
ハッキリ見えていました。



処理水停止の状況を把握しようと、下流へ向かい、池上の領域まで
来ました。
谷築橋付近のこの場所では、河床にわずかばかりの水深で
流れています。
こんなにわずかな水深の「呑川」を見たのは初めてでした。
河床の藻類がやっと隠れる程度でした。



さらに「蒲田」付近に向かうと、水位は潮汐によって決まる水面高になるため、処理水停止の影響を確認することは出来ませんでした。お近くに住み、毎日見ている方で無いと、正確な把握は難しいと思いました。

3) 野鳥たちの振る舞い

今回の「処理水停止」は、生きものたちにとって、「とまどい」や「衝撃」を少なからず与えたようです。



処理水停止の前までは、上流部・石川町では「オナガガモ」を中心に数十羽の集団が、3グループほどいました。全体で100羽近くはいたのです。ところが、この「処理水停止」を境にまったくいなくなりました。

石川町地域から下って、雪が谷の地域を探しても見かけません。
そして、久が原との境、新幹線鉄橋脇の「境橋」まで来ると・・・



やっと、2羽のカルガモに出逢いました。
水が無くなって泳ぐことが出来ませんので、川の真ん中で立ち往生して
休んでいたり、歩き回りながらエサを探しています。

オナガガモたちは、これを機会に「北帰行」して、シベリアや
カナダへ帰って行ったのかもしれませんが。
もうペアが成立していますし、時季的にも「渡り鳥」たちは戻り始める
時ですので、何かの機会に帰る時期でした。
水が無くなった衝撃は大きく、それがキックオフのきっかけになった
可能性はあると思います。

ただ、カルガモは「渡り鳥」でなく「留鳥」なので、地域を移動するだけ
ですので、さらに下流へ探しに行きました。



すると「道々橋」近くの「湧水孔」にカルガモがゆったりと泳いでいました。そこで、さらに「池上橋」付近まで下って行くと、ほとんどの「湧水孔」にはカルガモたちが泳いでいたのです。やはり、カルガモたちは水が減ったことに不安を覚え、水深のある「湧水孔」に行って、気持ちを落ち着かせたのかもしれません。生きものたちにとって「環境」が変わることは、とても大きなショックなのだと思います。

「水鳥」と違って、泳ぐことの出来ない「ハクセキレイ」は、この事態をどう受け止めたでしょう・・・



泳ぐことの出来ない「ハクセキレイ」は、川の中に入ることはしませんが（時として、岸辺で水を飲むことはあります）、この時ばかりは、堂々と河床で歩き回り、エサを探していました。暖かくなって、ユスリカなどもどんどん羽化して、水から飛び出して来ますから、それを狙っているのかもしれません。



ここは「仲之橋」（久が原）近くの段差で、水は勢いよく落ち込み、白く泡立っています。
ここにコサギなど大型の野鳥がいる事があっても、小さなハクセキレイがいることはありません。
はたして、ここに「ハクセキレイ」がやって来ることはあるでしょうか・・・



しばらく見ていると、なんと「ハクセキレイ」がこともなげに、この段差にチョコンと止まったのです。
多少の水は流れ落ちていますが、意に介さないようです。
「ハクセキレイ」たちは、本当は、みんな川に入ってみたかったのですね。

さて「処理水停止」のレポートは、今回はここまでにして、次回に続きます。

「処理水停止」が「水質」に与えた影響や、「処理水復活」、
「渋谷の開発」と呑川との関係などに触れたいと思っています。

(1回のレポートは、長すぎにならないよう、写真で20枚くらいの範囲に収めたいので、複数回のレポートになります。)

(当面の日程)

- 2014/3/19 (水) 「洗足池図書館・呑川講座」下打合せ 13:30 洗足池図書館
2014/3/19 (水) 「白子川ウォーク」下見
2014/3/20 (木) 「呑川の会・拡大世話人会」10:00-12:00 生活センター
2014/3/20 (木) 「呑川ネット・定例会」13:30-15:30 生活センター
2014/3/29 (土) 大田桜めぐりウォーク (洗足池・呑川環境学習コース)
「大田観光協会」主催 9:45 洗足池駅集合
「大田まちめぐりの会」と「呑川の会」が共同で案内をします。
2014/4/5 (土) 春のお花見ウォーク「白子川」西武池袋線「大泉学園」駅北口 9:30 集合
2014/4/19 (土) 「呑川の会・総会」13:30 蒲田小学校
今回は始めに、木下武雄 (水文環境・代表取締役) のお話しがあります。
-

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
